

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
健診施設を活用したHIV検査体制を構築し検査機会の拡大と知識の普及に挑む研究
分担研究報告書

2. 健診施設における HIV 検査の陽性率推計のためのゲイ男性向け HIV 検査の提供

研究分担者	阪野文哉	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 研究員
研究分担者	渡邊 大	国立病院機構 大阪医療センター HIV 感染制御研究室長
研究協力者	青木理恵子	特定非営利活動法人 CHARM
研究協力者	朝来駿一	ふれんどりーKOBE 代表
研究協力者	荒川創一	三田市民病院 院長
研究協力者	石川泰章	石川泌尿器科 院長
研究協力者	今西 治	いまにし泌尿器科 院長
研究協力者	岩佐 厚	岩佐クリニック 院長
研究協力者	岡 伸俊	岡クリニック 院長
研究協力者	亀岡 博	亀岡クリニック 院長
研究協力者	菅野展史	菅野クリニック 院長
研究協力者	清田敦彦	清田クリニック 院長
研究協力者	近藤雅彦	近藤クリニック 院長
研究協力者	澤田暁宏	兵庫医科大学 助教
研究協力者	塩野徳史	MASH 大阪 代表
研究協力者	杉本賢治	京橋杉本クリニック 院長
研究協力者	中村幸生	中村クリニック 院長
研究協力者	西岡弘晶	神戸市立医療センター中央市民病院 総合内科部長
研究協力者	福原 恒	平成泌尿器科クリニック 院長
研究協力者	福村沙織	大阪府健康医療部保健医療室感染症対策課
研究協力者	古林敬一	そねざき古林診療所 所長
研究協力者	吉田光宏	吉田泌尿器科 院長
研究分担者	森 治代	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 ウイルス課長
研究分担者	本村和嗣	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 公衆衛生部長
研究分担者	駒野 淳	大阪医科薬科大学薬学部 感染制御学研究室 教授
研究分担者	大森亮介	北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター 准教授
研究代表者	川畑拓也	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 主幹研究員

研究要旨

国内の健診施設全体へ HIV 検査を普及させた場合の HIV 陽性率を推定するためには、健診施設における受検割合や、受検者に含まれる個別施策層の割合、その個別施策層の陽性率など、様々なパラメーターが必要である。そこで今年度は、個別施策層であるゲイ・バイセクシャル男性の HIV 陽性率を推定するために、ゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・STI 検査の提供を試みた。方法としては、大阪府が実施する診療所を窓口としたゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・性感染症検査キャンペーンに併せ、大阪府と兵庫県阪神地域の合計 3ヶ所のクリニックの協力のもと、HIV と STI の検査を通常検査で提供し、検査結果より母集団の HIV 陽性率を検討した。

令和 3 年度における HIV 検査の総受検者数は 361 名（即日検査が 233 名、通常検査が 128 名）で、HIV 陽性者は 6 名（即日検査が 4 名、通常検査が 2 名）であった（陽性率 1.7%）。HIV 陽性者 6 名のうち、通常検査で陽性が確認された 3 名は、拠点病院において治療中の HIV 陽性者であり、新規陽性判明者の割合は 0.83% であった。

今後は、地域の違いにおける陽性率の差や、健診受診者に占めるゲイ・バイセク

シヤル男性の割合を検討するなどし、健診施設に HIV 検査が普及した場合の陽性率を推定するなどし、費用対効果について検討したい。

A.研究目的

我々はこれまでに、健診センターや人間ドックといった健診施設においてオプション検査等で提供されている HIV 検査の実施状況や受検者数などの調査を行った。また、昨年度からは、健診施設において実際に無料 HIV・梅毒検査の提供を試験的に開始した。

このように、健診施設で実際に無料 HIV・梅毒検査を提供し、その利用状況をモニタリング・評価することは重要であるが、一方で、無料 HIV・梅毒検査を普及させた場合のインパクトを評価することも求められる。

そこで、健診施設全体へ HIV 検査を普及させた場合の HIV 陽性率を推定するために、健診施設における受検割合や、受検者に含まれる個別施策層の割合、その個別施策層の陽性率など、様々なパラメーターの推定を試みた。

今年度も昨年度に引き続き、個別施策層であるゲイ・バイセクシャル男性の HIV 陽性率の推定を行うために、ゲイ・バイセクシャル男性向け HIV 検査の提供を試みた。

B.研究方法

今年度も、昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、地域間の移動が制限された時期があった。そのため、個別施策層であるゲイ・バイセクシャル男性の HIV 陽性率の推定を試みる目的で実施するクリニックを窓口とした HIV 検査の提供は、健康診断施設で無料 HIV・梅毒検査を提供している沖縄県那覇市では実施が困難であった。そこで、今年度も対象地域を大阪・阪神地域とし、ゲイ・バイセクシャル男性向けに検査を提供し、受検者に対して背景を尋ねるアンケート調査を実施した。

大阪府ではエイズ対策の一環として、診療所における MSM 向け HIV/STI 検査事業を実施しており、令和 3 年度は大阪府の承諾のもと、大阪府が事業として実施する即日検査実施診療所 8 ヶ所における MSM 向け検査に加え、我々が協力を依頼した、大阪府内と兵庫県の阪神地域の計 3 クリニックにおいて、スクリーニング検査に通常検査を用いた HIV/STI 検査を、両方の事業が一体となって利用者からみえるように配慮して提供した。

通常検査実施診療所では、HIV 抗原抗体検査のほか、梅毒の TP 抗体検査と STS 検査、B 型肝炎の HBs 抗原検査、C 型肝炎の HCV 抗体検査、尿を検体としたクラミジア核酸増幅

検査を提供し、即日検査実施診療所では IC 法による HIV-1/2 抗原抗体検査、梅毒 TP 抗体検査、B 型肝炎の HBs 抗原検査を提供した。

広報については、大阪府内は MASH 大阪、兵庫県内はふれんどりー K O B E、これら二つの CBO (Community-based Organization コミュニティベースド オーガニゼーション、当事者集団) の協力を得て実施した。

各診療所・クリニックにおいて検査希望者から採血された検体は、即日検査実施診療所においては HIV 迅速検査後に、通常検査実施診療所においては採血後に、委託臨床検査会社にて HIV/STI の追加検査・スクリーニング検査が実施され、結果は受け付けた診療所・クリニック医師と研究班に伝えられた。スクリーニング検査において HIV 陽性が判明した検体は、地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所に搬入され、HIV 確認検査を実施した。確認検査の結果は医師を通じて、受検者に告知され、陽性者には拠点病院を受診するよう紹介された。また、他の性感染症の罹患が判明した場合は、各クリニックで治療が行われた。

(倫理面への配慮)

本研究は地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 倫理審査委員会の承認を得て実施した (申請番号: 1802-06)。

C.研究結果

令和 3 年度の MSM 向け HIV/STI 検査事業は、令和 3 年 8 月 23 日から 9 月 30 日までの第一期と、令和 3 年 11 月 15 日から 12 月 18 日までの第二期の 2 期間実施した。

第一期の通常検査受検者数は 59 名で、うち HIV 陽性者は 0 名、梅毒陽性者は 16 名 (27.1%)、HBs 抗原検査陽性者は 2 名 (3.4%)、HCV 抗体陽性者は 1 名 (1.7%)、クラミジア遺伝子陽性者は 3 名 (5.1%) であった。一方、大阪府事業分の即日検査では、受検者数は 120 名、うち HIV 陽性者は 2 名 (2 名共治療中) で陽性率は 1.7%、梅毒陽性者は 31 名 (25.8%)、HBs 抗原検査陽性者は 0 名 (0%) であった。

第二期の通常検査受検者数は 69 名で、うち HIV 陽性者は 2 名 (新規診断 1 名、治療中 1 名) で陽性率は 2.9%、梅毒陽性者は 18 名 (26.1%)、HBs 抗原検査陽性者は 0 名 (0%)、HCV 抗体陽性者は 1 名 (1.4%)、クラミジア遺伝子陽性者は 1 名 (1.4%) であった。大阪府事業分の即日検査では、受検者数は 113 名、

うち HIV 陽性者は 2 名（2 名共新規診断）で陽性率は 1.8%、梅毒陽性者は 21 名（18.6%）、HBs 抗原検査陽性者は 1 名（0.9%）であった。

第一期と第二期の合計では、通常検査受検者数は 128 名で、うち HIV 陽性者は 2 名（新規診断 1 名、治療中 1 名）で陽性率は 1.6%、梅毒陽性者は 34 名（26.6%）、HBs 抗原検査陽性者は 2 名（1.6%）、HCV 抗体陽性者は 2 名（1.6%）、クラミジア遺伝子陽性者は 4 名（3.1%）であった。参考値にはなるが、本研究で実施した通常検査と大阪府事業で実施された即日検査の成績を一期と二期で併せた結果は、総受検者数は 361 名、HIV 陽性者は 6 名（新規診断 3 名、治療中 3 名）で陽性率は 1.7%であった。また、梅毒抗体陽性者は 86 名で、陽性率は 23.8%、HBs 抗原陽性者は 3 名で、陽性率は 0.83%であった。

通常検査実施診療所では、第一期に 58 名と第二期に 64 名の計 122 名からアンケートを回収した。アンケートは、「4.健診施設における無料 HIV・梅毒検査利用者集団の HIV 感染リスク評価に関する研究」において解析を行なった。

D. 考察

健診センターや人間ドック施設といった健康診断施設へ HIV 検査を普及させる場合の費用対効果を検討する上で、普及の結果、診断されるであろう新規 HIV 陽性者の推計を行うことは重要である。健診施設における HIV 陽性率を推定するために、健診施設の受診者における HIV 検査受検割合や、受検者に含まれる個別施策層の割合、その個別施策層の陽性率など、様々なパラメーターが必要となる。

そこで、今年度も HIV 感染割合が高い個別施策層であるゲイ・バイセクシャル男性の HIV 陽性率を推計するために、実際にゲイ・バイセクシャル男性に HIV 検査を提供し、陽性者を診断することで陽性率を調査する事を試みた。

研究班で提供した通常検査において、HIV 陽性率 1.6%を得、昨年との 1.3%と比較し、若干上昇した（大阪府の事業の結果と併せた場合は 1.7%で、こちらも昨年の 1.4%から若干上昇した。）。一方、健診施設における HIV 検査の提供においては、一昨年度は受検者 1103 名中陽性者 1 名、昨年度は受検者 2000 名中陽性者 2 名、今年度は受検者 750 名全て陰性であった。また、昨年度実施した健診施設における HIV 検査受検者のアンケート調査の結果、男性受検者の約 7.8%、総受検者の約 3.7%が MSM であったことが明らかになっている。こ

のことから健診施設における HIV 検査の提供におけるゲイ・バイセクシャル男性の陽性率は、およそ 2.6%と推定された。この結果は、今回のゲイ向け HIV 検査の提供による陽性率 1.3%と、それほど大きくは異なっていない。

これらのことから、健診施設における HIV 検査の提供においても、クリニックにおける HIV 検査と同様に、個別施策層の利用割合に応じた陽性率で、HIV 陽性者の診断が可能であることが示唆された。

一方で、昨年同様今回の推計に用いた受検者集団は、大阪と沖縄といった地域の違う異なる母集団であるため、HIV 感染割合の地域差を考慮していない。今後、検討の精度を高めるためには、大阪の健診施設において HIV 検査を提供し、アンケート調査を実施することで個別施策層の利用割合に差がないかなど、検討していく必要がある。

E. 結論

今年度も昨年度と同様に診療所を窓口としたゲイ・バイセクシャル向け HIV 検査を実施し、HIV 陽性率を推計する資料を得た。今後は、健診受診者の性的指向の内訳や地域によるゲイ・バイセクシャル男性の HIV 陽性率や健診受診割合などの検討を行い、健診施設へ HIV 検査を普及させた場合の HIV 陽性率推計の資料としたい。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Kagiura F, Matsuyama R, Watanabe D, Tsuchihashi Y, Kanou K, Takahashi T, Matsui Y, Kakehashi M, Sunagawa T, Shirasaka T. Trends in CD4+ cell counts, viral load, treatment, testing history, and sociodemographic characteristics of newly diagnosed HIV patients in Osaka, Japan, from 2003 to 2017: a descriptive study. J Epidemiol. 2021 Sep 11. doi: 10.2188/jea.JE20210150. Online ahead of print.
2. 中内崇夫、矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨：抗 HIV 療法施行中患者のポリファーマシーに関する調査、日本エイズ学会誌（印刷中）
3. 櫛田宏幸、中内崇夫、矢倉裕輝、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨：HIV-1, HBV 共感染血液透析症例におけるテノホビル血中濃度推移を測定した一症例。感染症学雑誌、2021 年、95(3)：319-323

4. Chu PY, Huang HW, Boonchan M, Tyan YC, Louis KL, Lee KM, Motomura K, Ke LY. Mass Spectrometry-Based System for Identifying and Typing Norovirus Major Capsid Protein VP1. *Viruses*. 2021;13:2332.
5. Hiroi S, Kubota-Koketsu R, Sasaki T, Morikawa S, Motomura K, Nakayama EE, Okuno Y, Shioda T. Infectivity assay for detection of SARS-CoV-2 in samples from patients with COVID-19. *J Med Virol*. 2021;93:5917-5923.
6. Morikawa S, Otsuka M, Yumisashi T, Motomura K. A longitudinal study on respiratory viral infection for healthy volunteers. *Health Sci Rep*. 2021;4:e413.
7. Tacharoenmuang R, Guntapong R, Upachai S, Singchai P, Fukuda S, Ide T, Hatazawa R, Sutthiwarakom K, Kongjorn S, Onvimala N, Luechakham T, Ruchusatsawast K, Kawamura Y, Sriwanthana B, Motomura K, Tatsumi M, Takeda N, Yoshikawa T, Murata T, Uppapong B, Taniguchi K, Komoto S. Full genome-based characterization of G4P[6] rotavirus strains from diarrheic patients in Thailand: Evidence for independent porcine-to-human interspecies transmission events. *Virus Genes*. 2021;57:338-357.
8. Kurata T, Kanbayashi D, Komano J, Motomura K. Relationship between biochemical markers and measles viral load in patients with immunologically naive cases and secondary vaccine failure: LDH is one of the potential auxiliary indicators for secondary vaccine failure. *Microbiol Immunol*. 2021;65:265-272.
9. Ikemori R, Aoyama I, Sasaki T, Takabayashi H, Morisada K, Kinoshita M, Ikuta K, Yumisashi T, Motomura K. Two Different Strains of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus (SFTSV) in North and South Osaka by Phylogenetic Analysis of Evolutionary Lineage: Evidence for Independent SFTSV Transmission. *Viruses*. 2021;13:177
10. Kurata T, Yamamoto SP, Nishimura K, Yumisashi T, Motomura K, Kinoshita M. A measles outbreak in Kansai International Airport, Japan, 2016: Analysis of the quantitative difference and infectivity of measles virus between patients who are immunologically naive versus those with secondary vaccine failure, *Journal of Medical Virology*. 2021; 93:3446-3454.
11. Miyama T, Iritani N, Nishio T, Ukai T, Satsuki Y, Miyata H, Shintani A, Hiroi S, Motomura K, Kobayashi K. Seasonal shift in epidemics of respiratory syncytial virus infection in Japan. *Epidemiol Infect*. 2021; 11;149:e55.
12. 本村和嗣 ノロウイルス感染症, 日本老年医学会雑誌. 2021; 58:60-64.
13. Miyamoto K, Kawano H, Okai N, Hiromoto T, Miyano N, Tomoo K, Tsuchiya T, Komano J, Tanabe T, Funahashi T, Tsujibo H. Iron-Utilization System in *Vibrio vulnificus* M2799. *Mar Drugs*. 2021 Dec 17;19(12):710. doi: 10.3390/md19120710.
14. Shinohara K, Furubayashi K, Kojima Y, Mori H, Komano J, Kawahata T. Clinical perspectives of *Treponema pallidum* subsp. *Endemicum* infection in adults, particularly men who have sex with men in the Kansai area, Japan: A case series. *J Infect Chemother*. 2021 Nov 23;S1341-321X(21)00323-8. doi: 10.1016/j.jiac.2021.11.012.
15. Yamayoshi A, Fukumoto H, Hayashi R, Kishimoto K, Kobori A, Koyanagi Y, Komano JA, Murakami A. Development of 7SK snRNA Mimics That Inhibit HIV Transcription. *ChemMedChem*. 2021 Oct 15;16(20):3181-3184. doi: 10.1002/cmdc.202100422.
16. Ryota Matsuyama, Takehisa Yamamoto, Yoko Hayama, Ryosuke Omori. Estimation of the Lethality Rate, Recovery Rate, and Case Fatality Ratio of Classical Swine Fever in Japanese Wild Boar: An Analysis of the Epidemics From September 2018 to March 2019. *Front Vet Sci*. 2021. 8:772995.
17. Saaya Mori, Sakura Ishiguro, Satoru Miyazaki, Torahiko Okubo, Ryosuke Omori, Ayako Kai, Kyohei Sugiyama, Airi Kawashiro, Masato Sumi, Jeewan Thapa, Shinji Nakamura, Chietsugu Katoh, Hiroyuki Yamaguchi. Usefulness of a 3D-printing air sampler for capturing live airborne bacteria and exploring the environmental factors that can influence bacterial dynamics. *Res Microbiol*. 2021. 103864-103864.
18. Fuminari Miura, Masaaki Kitajima, Ryosuke Omori. Duration of SARS-CoV-2

- viral shedding in faeces as a parameter for wastewater-based epidemiology: Re-analysis of patient data using a shedding dynamics model. *Sci Total Environ.* 2021. 769:144549-144549.
19. Yukiko Nakamura, Kyoko Hayashida, Victoire Delesalle, Yongjin Qiu, Ryosuke Omori, Martin Simunza, Chihiro Sugimoto, Boniface Namangala, Junya Yamagishi. Genetic Diversity of African Trypanosomes in Tsetse Flies and Cattle From the Kafue Ecosystem. *Front Vet Sci.* 2021. 8:599815.
 20. Chiho Kaneko, Ryosuke Omori, Michihito Sasaki, Chikako Kataoka-Nakamura, Edgar Simulundu, Walter Muleya, Ladslav Moonga, Joseph Ndebe, Bernard M. Hang'ombe, George Dautu, Yongjin Qiu, Ryo Nakao, Masahiro Kajihara, Akina Mori-Kajihara, Herman M. Chambaro, Hideaki Higashi, Chihiro Sugimoto, Hirofumi Sawa, Aaron S. Mweene, Ayato Takada, Norikazu Isoda. Domestic dog demographics and estimates of canine vaccination coverage in a rural area of Zambia for the elimination of rabies. *PLOS Negl Trop Dis.* 2021. 15(4):e0009222.
 21. Houssein H Ayoub, Ibtihel Amara, Susanne F Awad, Ryosuke Omori, Hiam Chemaitelly, Laith J Abu-Raddad. Analytic characterization of the herpes simplex virus type 2 epidemic in the United States, 1950-2050. *Open Forum Infect Dis.* 2021.8(7):ofab218.
 22. Naoki Nomura, Keita Matsuno, Masashi Shingai, Marumi Ohno, Toshiki Sekiya, Ryosuke Omori, Yoshihiro Sakoda, Robert G. Webster, Hiroshi Kida. Updating the influenza virus library at Hokkaido University -It's potential for the use of pandemic vaccine strain candidates and diagnosis. *Virology.* 2021. 557:55-61.
 23. Andrei R. Akhmetzhanov, Kenji Mizumoto, Sung-Mok Jung, Natalie M. Linton, Ryosuke Omori, Hiroshi Nishiura. Estimation of the Actual Incidence of Coronavirus Disease (COVID-19) in Emergent Hotspots: The Example of Hokkaido, Japan during February–March 2020. *J Clin Med.* 2021. 10(11):2392.
 24. Masashi Shingai, Naoki Nomura, Toshiki Sekiya, Marumi Ohno, Daisuke Fujikura, Chimuka Handabile, Ryosuke Omori, Yuki Ohara, Tomohiro Nishimura, Masafumi Endo, Kazuhiko Kimachi, Ryotarou Mitsumata, Tomio Ikeda, Hiroki Kitayama, Hironori Hatanaka, Tomoyoshi Sobue, Fumihito Muro, Saori Suzuki, Cong Thanh Nguyen, Hirohito Ishigaki, Misako Nakayama, Yuya Mori, Yasushi Itoh, Marios Koutsakos, Brendon Y Chua, Katherine Kedzierska, Lorena E Brown, David C Jackson, Kazumasa Ogasawara, Yoichiro Kino, Hiroshi Kida. Potent priming by inactivated whole influenza virus particle vaccines is linked to viral RNA uptake into antigen presenting cells. *Vaccine.* 2021. 39(29):3940-3951.
 25. Ryosuke Omori, Fuminari Miura, Masaaki Kitajima. Age-dependent association between SARS-CoV-2 cases reported by passive surveillance and viral load in wastewater. 2021. *Sci Total Environ.* 2021. 792(2021):148442-148442.
 26. Chiho Kaneko, Michihito Sasaki, Ryosuke Omori, Ryo Nakao, Chikako Kataoka-Nakamura, Ladslav Moonga, Joseph Ndebe, Walter Muleya, Edgar Simulundu, Bernard M. Hang'ombe, George Dautu, Masahiro Kajihara, Akina Mori-Kajihara, Yongjin Qiu, Naoto Ito, Herman M. Chambaro, Chihiro Sugimoto, Hideaki Higashi, Ayato Takada, Hirofumi Sawa, Aaron S. Mweene, Norikazu Isoda. Immunization Coverage and Antibody Retention against Rabies in Domestic Dogs in Lusaka District, Zambia. *Pathogens.* 2021. 10(6):738.
2. 学会発表
 1. 阪野文哉、川畑拓也、森 治代、大阪府内の保健所等における HIV 無料匿名検査に新型コロナウイルス感染症が及ぼした影響について、第 34 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2021 年
 2. 川畑拓也、阪野文哉、渡邊 大、塩野徳史、福村沙織、朝来駿一、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一、大森亮介、駒野 淳、森 治代、本村和嗣、MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン (2020 年度実績報告)、第 35 回日本エイズ学会学術集会、東京 (オンサイト)、2021 年
 3. 川畑拓也、阪野文哉、森 治代、血中ピオチン濃度が HIV 等迅速診断キットに及ぼす影響に関する検討、第 35 回日本エイズ学会学術集会、東京 (オンデマンド)、2021 年

4. 川畑拓也、阪野文哉、マイクロ流路型遺伝子定量装置「GeneSoCc (ジーンソック)」を用いた梅毒トレポネーマ遺伝子検出系の確立、日本性感染症学会第34回学術大会、石川(リモート)、2021年
5. 山本 祐、廣田和之、渡邊 大、長手泰宏、柴山浩彦、COVID-19 に対する mRNA ワクチン接種後に AIHA の再燃をきたした一例、第234回日本内科学会近畿地方会、WEB、2021年
6. 渡邊 大、抗 HIV 治療ガイドラインにおけるダルナビルの位置付けと今後の展望、第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
7. 渡邊 大、ブロック拠点病院における保険薬局薬剤師との連携を考える、第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
8. 川畑拓也、渡邊 大、駒野 淳、伊禮之直、真栄田 哲、崎原永辰、仁平 稔、久高 潤、仲宗根正、健康診断機会を利用した HIV・梅毒検査の提供(2020年度実績報告)、第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
9. 織田佳晃、岡本 学、渡邊 大：高齢期を迎えた HIV 陽性者の生活状況と保健医療・福祉サービス利用状況に関する実態調査。第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
10. 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、瀧永博之、岡 慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、山本政弘、松下修三、饒平名 聖、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、薬剤耐性 HIV 調査ネットワーク、国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向、第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
11. 宇野俊介、菊地 正、林田庸総、今橋真弓、南 留美、古賀道子、寒川 整、渡邊 大、藤井輝久、健山正男、松下修三、吉野友祐、遠藤知之、堀場昌英、谷口俊文、猪狩英俊、吉田 繁、豊嶋崇徳、中島秀明、横幕能行、岩谷靖雅、蜂谷敦子、瀧永博之、吉村和久、杉浦 互、E157Q 変異を有する未治療 HIV-1 感染者におけるインテグラーゼ阻害薬をキードラッグとした抗 HIV 薬開始後の臨床経過。第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
12. 西川歩美、安尾利彦、水木 薫、白阪琢磨、渡邊 大、三田英治、大阪医療センターにおける薬害 HIV 遺族健康診断受診支援事業の利用状況および利用希望等に関する検討。第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
13. 中内崇夫、榎田宏幸、矢倉裕輝、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、当院におけるドラビリンの使用状況に関する調査。第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
14. 矢倉裕輝、中内崇夫、榎田宏幸、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、日本人 HIV-1 感染者におけるドラビリンの血漿中濃度に関する検討 第1報。第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
15. 榎田宏幸、中内崇夫、矢倉裕輝、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨、HIV-1 感染血液透析症例におけるドラビリン血中濃度についての検討、第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
16. 今橋真弓、照屋勝治、渡邊 大、遠藤知之、南 留美、渡邊泰子、Andrea Marongiu、谷川哲也、Marion Heinzkill、白阪琢磨、横幕能行、岡 慎一、実臨床でのビクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド (B/F/TAF) の有効性、安全性及び忍容性：BICSTaR Japan の12ヵ月後向き評価、第35回日本エイズ学会学術集会・総会、品川、2021年
17. 田中大地、西村英里香、岸由衣加、岩崎莉佳子、山口大旗、河本佐季、秦 誠倫、山本裕一、渡邊 大、西田恭治、加藤 研、抗 HIV 治療開始後に抗 GAD 抗体陽性となった症例、第58回日本糖尿病学会近畿地方会、京都、2021年
18. 中内崇夫、榎田宏幸、矢倉裕輝、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、山下大輔、井上敦介、上平朝子、吉野宗弘、白阪琢磨、大阪医療センターにおけるアバカビル/ラミブジン配合剤の後発品の使用状況に関する調査、第75回国立病院総合医学会、WEB、2021年
19. 榎田宏幸、中内崇夫、矢倉裕輝、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、吉野宗宏、

- 上平朝子、白阪琢磨、HIV-1 感染血液透析症例におけるドラビリン血中濃度推移を測定した 2 症例、第 34 回近畿エイズ研究会学術集会、WEB、2021 年
20. 種田灯子、光井絵理、上原雄平、花岡 希、山本裕一、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、加藤 研、抗 HIV 治療開始後に 1 型糖尿病を発症し、免疫再構築症候群の関与が疑われた 3 症例、第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会、WEB、2021 年
21. 渡邊 大、抗 HIV 療法における TAF 含有レジメンの有用性について、第 95 回日本感染症学会学術講演会、横浜、2021 年
22. 松山亮太、渡邊 大、土橋西紀、鍵浦文子、加納和彦、高橋琢理、松井佑亮、白阪琢磨、砂川富正、梯 正之、CD4 細胞数データとインシデンス法を利用した日本における HIV 感染者数の推定、第 31 回日本疫学会学術総会、WEB、2021 年
23. 本村和嗣 大阪府における感染症発生動向について—2020— 講演 大阪小児医会 大阪 2021 年
24. Yuka Hirose, Minami Hama, Yuzu Nakamura, Mayuko Yagi, Jun Komano, Satoshi Takeda. 成人 T 細胞白血病株 ED におけるプロウイルス挿入部位の宿主とウイルス遺伝子の発現制御. 第 68 回 日本ウイルス学会 2021 年. 10 月 26 日. 神戸.
25. 八木真裕子、浜みなみ、中嶋友里江、上林大起、倉田貴子、遊佐宏介、駒野 淳. Loss-of-function スクリーンによる風疹ウイルス感染の制御因子の同定. 第 68 回 日本ウイルス学会 2021 年. 10 月 26 日. 神戸.
26. 浜みなみ、八木真裕子、中嶋友里江、上林大起、倉田貴子、遊佐宏介、駒野 淳. CRISPR-Cas9 ノックアウトスクリーンによる風疹ウイルスのヒト細胞における感染メカニズムの探索. 日本薬学会 第 141 年会 2021 年. 3 月 26 日. 広島.
27. 土屋菜歩、佐野貴子、カエベタ亜矢、城所敏英、関なおみ、根岸 潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島 嗣、今井光信、今村顕史、保健所・検査所における HIV 検査・相談体制と実施状況および課題に関するアンケート調査、第 35 回日本エイズ学会学術集会、東京（オンデマンド）、2021 年
28. 土屋菜歩、佐野貴子、カエベタ亜矢、城所敏英、関なおみ、根岸 潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島 嗣、今井光信、今村顕史、保健所・検査所における梅毒検査実施状況および課題に関するアンケート調査、第 35 回日本エイズ学会学術集会、東京（オンデマンド）、2021 年
29. Marta Pla-Díaz, Petra Pospíšilová, David Šmajš, Takuya Kawahata, Philipp P. Bosshard, Kay Nieselt, Natasha Arora, Lorenzo Giacani, Allan Pillay, Weiping Cao, Fernando González-Candelas, Development and evaluation of a new typing system for *Treponema pallidum*, MEEGID XV -15th International Conference on Molecular Epidemiology and Evolutionary Genetics of Infectious Diseases, Online Live and On-demand, 2021
- H. 知的財産権の出願・登録状況
特になし。

